

多数の参加申込を頂き、募集を締め切りました  
[H30.10～H31.2 計5回シリーズ]

# ネクストリーダー育成ワークショップ

技術・物事を幅広い視点から考え・整理できる人材を育成します！

テーマ「IoT、AI、ロボット、ものづくり」

## はじめに

「IoT、ビッグデータ、AI など最新技術がものづくりにどう影響するのかわからない」や、「そういったことに対応できる次のリーダー人材を育てたい。」といった意見を企業の方から多く聞きます。しかし、座学の研修だけでは対応は難しく、技術や物事に対して、幅広い視点から考え・整理できる人材を育成する必要があります。

そこで平成 29 年度より、その人材育成の場として、「幅広い視点から考え・整理できる力」を身につけることを目的とした「ネクストリーダー育成ワークショップ」をスタートしました。本ワークショップでは、講演を通じて、最新の理論や活用事例を学ぶとともに、業種やバックグラウンドが異なる参加者間でのディスカッションと発表に重点を置き、そのプロセスを通じて、違うものの見方や異なる発想に触れ、参加者の視野を広げます。

今回は、平成 29 年度に反響の大きかった、「ものづくりに大きな影響を及ぼす IoT、AI 等の最新技術」をテーマに、ロボット技術や、現場における製品・サービスの IoT 化を新たに取り上げ、技術の応用や異なる分野への展開の可能性などを探ります。

また、大阪大学 CO デザインセンターの池田副センター長にファシリテータを務めて頂き、グループディスカッションや発表など、ワークショップを効果的にすすめるようにデザインします。

## 1. ワークショップで得られるもの

仕掛け	育成する能力
<ul style="list-style-type: none"><li>最新の技術、活用事例など注目の高いテーマに関する講演の受講</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>基礎的な知識・知見の習得</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>講演の受講だけでなく、講演内容を題材とした少人数グループに分かれてのディスカッションに重点を置く</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>自分の意見を発信する能力</li><li>バックグラウンドの異なる他業種からの参加者からの意見を聞くことによる視野の拡大（交流のない他業種の参加者との交流）</li><li>ディスカッションを通じて内容のより深い理解</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>グループ毎にディスカッション結果を発表</li><li>発表内容に対する講師、ファシリテータからのフィードバック</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>議論した内容をまとめる能力</li><li>プレゼンテーション能力</li><li>ファシリテーション能力</li><li>自分たちのディスカッション結果と他のグループの結果との比較により、欠けていた視点の気づき</li></ul>

「技術・物事」に対して幅広い視点から考え・整理できる人材を育成します。

## 2. ワークショップの概要



### 2.1 実施時期・実施回数・実施場所

[実施時期・回数] 平成30年10月～平成31年2月に、計5回実施

[実施場所] 大阪科学技術センター会議室 [大阪市西区靱本町1-8-4]、他

	日程・場所	テーマ
第1回	10/9(火) 10:00-19:00 [8F 小ホール]	IoT/クラウド/ビッグデータ/AI/Industrie4.0の理解のために ～業務プロセスのIoT化と産業構造の変化～
第2回	11/13(火) 13:00-19:00 [大阪工業大学 梅田キャンパス 8F ロボティクス&デザインセンター]	超高齢社会で役立つサービスロボットとは ～成功する商品開発の勘所～
第3回	12/上中旬(調整中) 13:00-19:00	製造業のIoT化の本質 ～日本企業としてデジタル化にどう取り組むか～
第4回	1/中旬(調整中) 13:00-19:00	ヤンマーが提案する次世代の農業 ～A SUSTAINABLE FUTUREの実現に向けて～
第5回	2/15(金) 13:00-19:00 [4F 401号室]	(最終報告会) 与えられたテーマに基づき、グループ毎に発表

### 2.2 実施内容

- ・オリエンテーション(ワークショップの進め方、ファシリテーションの基本等)
- ・講演(各分野の有識者を招き、最新の理論、今後の方向性、事例等をレクチャー)
- ・グループディスカッション、発表(講演で得た基礎知識と活用事例をふまえ、設定したテーマ毎にグループディスカッションを行い、意見をまとめて発表)

\* 後述の「2.5 各回のテーマと講師」、「2.6 各回のスケジュール」も合わせて参照下さい。

### 2.3 参加対象者と募集人数

- ・対象者:主に若手、中堅社員(本ワークショップへの参加がふさわしいと思われる方)
- ・募集人数:36名(定員に達し次第〳切)

### 2.4 参加費(税抜き)

- ・賛助会員:10万円/名
- ・非賛助会員:15万円/名

\* 参加お申し込みを受領後、請求書を送付いたします。

\* 受講者の会場への往復交通費及び交流会参加費(2,000円/回)は、ご負担下さい。

### 2.5 各回のテーマと講師

次頁以降を参照

\* 講師に関する情報は、募集当初のものです

## 講演テーマ

### 「IoT/クラウド/ビッグデータ/AI/Industrie4.0 の理解のために ～業務プロセスのIoT化と産業構造の変化～」

総務省 関東総合通信局 局長 関 啓一郎 氏



(講演概要)

IoT、クラウド、ビッグデータ、人工知能(AI)などの言葉が世の中で普通に使われるようになって久しい。新聞などで見かけない日は無いと言って良いほどだ。しかし、定義が曖昧な「はやり言葉」だけに不正確な理解や個人が抱く意味内容が異なることもある。

ここでは、「筋肉」の機械化としての産業革命と比較し、「人間の知的処理機能」(脳、神経、五感)の機械化の時代に我々は生きているという認識の元で、次のような点について解説を行う。

- ✓ 産業革命と情報通信革命
- ✓ IoT、クラウド、ビッグデータ、人工知能(AI)が持つ内容、これらの関係とその意義
- ✓ 政府の取り組み
- ✓ インダストリー4.0 / 業務プロセスのIoT化による産業構造の変化

～講師略歴～

東京大学法学部卒  
郵政事務次官秘書、国際経済研究所ワシントン事務所長、郵政省マルチメディア振興室長、内閣官房副長官補付内閣参事官(IT戦略担当)、総務省国際経済課長、固定資産税課長、内閣官房情報セキュリティセンター(NISC)総括担当参事官、四国総合通信局長、愛媛大学客員教授、東京大学公共政策大学院教授、野村総合研究所 未来創発センター 主席研究員、近畿総合通信局長等を経て、2017年7月より現職。2003年「e-Japan 戦略」、2008年「第二次情報セキュリティ基本計画」の策定に携わった。

第  
1  
回

## 講演テーマ

### 「超高齢社会で役立つサービスロボットとは ～成功する商品開発の勘所～」

大阪工業大学 ロボティクス&デザインセンター長  
大阪大学大学院 医学系研究科 招聘教授  
日本医療研究開発機構 プロジェクトスーパーバイザー  
アルロボット(株)・MARI(株) 代表取締役社長  
本田 幸夫 氏



(講演概要)

家電、自動車、ICTに続く巨大市場が作り出されると予想されているサイバーフィジカルサービス産業としてのロボット・AI技術は、世界各国で様々な分野への適用に向けた開発が進められている。特に日本や欧米のみならず14億の人口を抱える中国でも急激に高齢化が進んでおり、超高齢社会の課題解決にロボット・AI技術を活用する試みがなされようとしている。本講義では、国家プロジェクトとして進められているロボット介護機器開発導入・促進事業から得られた様々な知見を紹介することで、最先端のロボット技術の解説のみならずサービスロボットの産業化に必要な出口戦略を考える。

- ✓ ロボット技術の現状
- ✓ 拡大するロボットの適用領域
- ✓ 超高齢社会の課題を解決するロボットとは何か
- ✓ normalization とロボティクス
- ✓ サービスロボットの事業化、産業化の課題

～講師略歴～

1989年松下電器産業(現パナソニック)入社。モータ技術者を経て、マレーシア松下モータ株式会社経営責任者、モータ社CTO兼モータ開発研究所長、本社R&D部門ロボット事業推進センター所長。2013年から大阪工業大学ロボット工学科教授、大阪大学招聘教授、日本医療研究開発機構PS、ロボット革命イニシャティブ協議会評議員など公職兼任。「ノーマラーゼーションを支援するロボティクス&デザイン」の研究開発を推進。2010年第4回ロボット大賞(日本機械工業連合会会長賞)2012年第5回ロボット大賞(経済産業大臣賞)を受賞。

第  
2  
回

## 講演テーマ

### 「製造業のIoT化の本質

～日本企業としてデジタル化にどう取り組むか～

シーメンス(株) デジタルファクトリー事業本部

プロセス&ドライブ事業本部

専務執行役員 事業本部長 島田 太郎 氏



(講演概要)

インダストリー4.0に代表される第四次産業革命の波は日本の中小企業にとっても新しいビジネスモデル確立のためのチャンスである。インダストリー4.0の本場ドイツで、中核企業として参加してきたシーメンスが考える、スマートファクトリーの本質、データの見える化だけでなくIoT化の要諦、マイスターの力を失わない競争力強化等の事例などを解説するとともに、日本の中堅中小企業がIoT化に取り組むべき方向性を探る。

- ✓ インダストリー4.0の本場ドイツのスマートファクトリー、その本質は何なのか
- ✓ データの見える化だけでは、IoT化ができたとは言えない
- ✓ ここまでできる、シーメンスが考える製造業のIoT化
- ✓ 数千円から始められるIoTプラットフォームとIoT時代の工場の新セキュリティ

～講師略歴～

1990年、新明和工業に入社し、航空機設計に約10年間従事。「Boeing 777」「Boeing 717」「Gulf Stream GV」「海上自衛隊US-2」の構造・空力設計や試験、設計統括を担当。その後、I-DEASの開発元・旧SDRC社(現在はシーメンスPLMソフトウェアと統合)に入社し、マーケティングやコンサルティング、セールスに携わる。2010年4月よりシーメンスPLMソフトウェア日本法人の代表取締役社長兼米国本社副社長に就任。2014年よりドイツ・シーメンスのセールス・ビジネス開発部門勤務の後、2015年9月より現職。

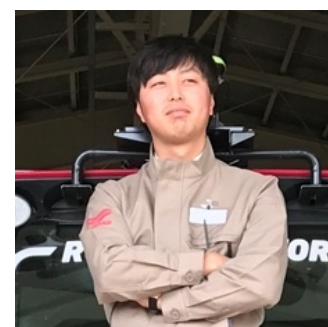
第3回

### 「ヤンマーが提案する次世代の農業

～A SUSTAINABLE FUTUREの実現に向けて～

ヤンマー(株) アグリ事業本部 開発統括部

システム連携開発部 岩瀬 卓也 氏



(講演概要)

日本の農業は、農業人口減少などによる人手不足への対応、農業活性化が喫緊の課題となっており、『持続可能な農業』を実現するためには、バリューチェーン全体から生産性を見直す必要がある。本講義では、その課題解決に向けて、ヤンマーが取り組んでいる、機械技術、栽培技術、ICT活用を解説するとともに、次世代の農業を探る。

- ✓ 日本の農業の現状とこれからの課題
- ✓ 高齢化・労働力不足をテクノロジーで支えるロボットトラクター
- ✓ 農機の稼働状況や栽培計画の合理化・効率化をサポートする「SMART ASSIST」
- ✓ AI/IoTを活用した次世代施設園芸システムの確立に向けた取り組み

～講師略歴～

芝浦工業大学大学院 工学研究科 機械工学専攻(修士)修了。  
日野自動車(株)で5年間車両全体設計に従事、2016年発売のフルモデル開発に携わる。  
同年ヤンマー(株)に入社、システム連携開発部で「ロボットトラクター」の開発担当となる。  
主担当は認知、判断などの知能化関連技術。  
トラクターの作業無人化、自動運転などの開発を行う。

第4回

<b>第 5 回</b>	<p>・ <b>最終報告会</b></p> <p>与えられたテーマに基づいてディスカッションし、グループ毎に発表する。 また、最後には、本ワークショップに参加した感想を各自から発表いただく。</p>
----------------------	---

### ファシリテータについて：

池田 光穂 氏（大阪大学 CO デザインセンター 教授・副センター長）  
 最終学歴：大阪大学 大学院医学研究科 博士課程単位取得済退学  
 職歴：1992.4 東日本学園大学（北海道医療大学）教養部助教授  
 2002.10 熊本大学 文学部教授（文化表象学）  
 2005.4 大阪大学 コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）教授  
 2015.8 大阪大学 CSCD 教授・センター長（～2016.6）  
 2016.7 大阪大学 CO デザインセンター 教授・副センター長（現在に至る）

専門：中央アメリカの民族誌学と医療人類学。CSCD では、専門的知識をもつ者と  
 もたない者の間、利害や立場の異なる人々をつなぐコミュニケーションの回路の  
 構想・設計・実践を目指して、「現場力」をテーマに、「対話重視」で各種取組みを展開。



## 2.6 各回の基本的なスケジュール

第1回	実施項目	講師
10:00	オリエンテーション	ファシリテータ
11:30	昼食（弁当を事務局で準備）	昼食をとりながら自己紹介
13:00	講演会	講演者・（ファシリテータ）
15:00	ディスカッション（1） *ディスカッション結果の発表を含む	ファシリテータ
16:30	ディスカッション（2）	ファシリテータ
18:00	交流会	
19:00	終了	

第2～4回	実施項目	講師
13:00	講演会	講演者・（ファシリテータ）
14:30	ディスカッション（1） （含、チェックイン・前回振返り）	（講演者）・ファシリテータ
16:30	ディスカッション（2）	（講演者）・ファシリテータ
18:00	交流会	
19:00	終了	

第5回	実施項目	講師
13:00	最終報告に向けての グループディスカッション	ファシリテータ
15:00	最終報告（プレゼンテーション）	ファシリテータ、企業の経営者等
17:30	修了式	修了証、ならびに優秀プレゼン賞授与
18:00	交流会	
19:00	終了	

### 3. お申し込み方法

- 別紙の参加申込書に記入の上、事務局あてに、EメールもしくはFAXでお送り下さい。
- 36名の定員となりますので、お早めにお申込み下さい。
- グループワークの性格上、できるだけ同一の方が5回を通じてご参加ください。

### 4. 募集期間と受講のご連絡

- 応募締切り：平成30年10月2日（火） \*定員に達し次第、締め切ります。
- 受講の連絡：お申込みを受け取り後、事務局からご連絡いたします。

### 5. 書類提出先およびお問い合わせ先

一般財団法人 大阪科学技術センター 総務部（担当：篠崎）  
〒550-0004 大阪府大阪市西区靱本町 1-8-4  
E-mail: [k.shinozaki@ostec.or.jp](mailto:k.shinozaki@ostec.or.jp) FAX 番号：06-6443-5319

#### 受講者の声

- ✓ 全く携わった事が無かったデータ解析の内容は、弊社のビックデータ活用に貢献できる可能性があり、今後のスキルUPの為のきっかけを作って頂いたと感じた。
- ✓ ディスカッションを通じて自分の考え方の狭さを認識し、枠を超えた自由大胆な発想を行うことの重要性を理解できた。
- ✓ 異業種メンバーとのディスカッションで、会社で設計担当の自分が顧客目線でニーズを捉えられていないことに気付けた。
- ✓ ディスカッションを通じて新しいアイデアが生まれる体験をし、自分で考えるだけでなく、メンバーの意見を引き出す意識が生まれた。
- ✓ ビックデータ解析を進める事で不良解析が可能となり、将来的に検討しているスマート生産のイメージを持つ事が出来た。
- ✓ バックグラウンドの異なる他業種からの優秀な参加者から意見を聞くことによる異なる発想での知識の吸収、視野の拡大ができた。
- ✓ 自分の意見のみではなく異業種の方の意見も取り入れ、まとめていくということが、今まであまり経験したことがなかったので、勉強になった。
- ✓ 「様々な意見を持った人と議論をする」ということに少し慣れたので、ユーザとの打合せでも、ユーザの意見を最初から否定せずに、聴くことができるようになった。
- ✓ 新規取組みの初期段階で、自らが先頭に立って、メンバーを集めディスカッションを行う場面で、ディスカッションの進めた方など、今回の経験が生きた。
- ✓ 新しいことをやってみようという音頭を取ることに抵抗がなくなった。
- ✓ 堅苦しくなくリラックスした雰囲気で大変良かった。次回も弊社から参加を勧めたい。

#### 個人情報の取扱いについて

- 本ワークショップへのお申込みにあたり、個人情報保護のため、(一財)大阪科学技術センターが、適切に取り扱います。
- ご記入頂いた個人情報は、本ワークショップの運営・管理等に関するご連絡及び当財団の関連する事業等のご案内以外には使用致しません。個人情報の取扱いは、当財団の「個人情報保護規程」に従って対応いたします。